

南部



いずみかつらぎさん
7. 和泉葛城山のブナ林

南部は大和川以南の広大な地域で、大阪湾ぞいの海岸低地から台地をへて、
東は羽曳野丘陵からはびきの金剛生駒山系のこんごういこまさんけい二上山、にじょうざん大和葛城山、やまとかつらぎさん金剛山へと続きます。
南は泉北丘陵をへて、せんぼく岩湧山、いわわきさん三国山、みくにさん和泉葛城山が連なる和泉葛城山系へと
つながっています。

山林は、大部分がマツ林かスギ・ヒノキの人工林ですが、ぞうきばやし雑木林もかなり残って
います。こんごうさん金剛山・いずみかつらぎさん和泉葛城山にはブナ林もあって、涼しいところが好きな冷温帯の
生きものが多くすんでいます。例えば、エゾゼミはブナ林のあるすべての山にいま
すが、こんごうさん金剛山のブナ林にはさらにアカエゾゼミとエゾハルゼミがいます。

こんごうさん金剛山のブナ林には、大阪では他でみられない植物が多く、アサガラやマメグ
ミなどのもくほん木本、ミヤマムグラやマルバイチャクソウなどのそうほん草本など、数十種

をかぞえます。野鳥も多く、大阪ではふつうみられないゴジュウカラやコガラ、オオアカゲラなどがすみつき、夏にはキビタキやクロツグミなどが渡ってきて繁殖することがあります。また、コンゴウオサムシ（ドウキョウオサムシ）という世界で金剛山にしかない珍しい昆虫もいます。

泉北から泉南にかけては、もともとため池が多く、池や沼の水生物が豊富に生息していましたが、戦後の農薬の影響や埋め立て、コンクリートによる護岸整備などで、だんだんといなくなってしまいました。

泉北では、堺市の南部丘陵（鉢ヶ峰など）に里山環境がよく残り、カスミサンショウウオやメダカをはじめ

トンボ類やホタル類などの昆虫、オオタカなどの鳥や数多くの植物がみられません。また自衛隊の演習場がある和泉市の信太山は、大阪では珍しく広い草原環境となっていて、草索性や湿地性の生きものがたくさんすんでいます。昆虫ではハッチョウトンボやジャノメチョウ、ウスバカマキリ、クルマバッタなど、植物ではオミナエシヤリンドウ、モウセンゴケなど、他ではみられなくなった種類が残っています。

南部の山地は広大で、山林などもつながっているため、オオタカやクマタカなどの猛禽類や大型の動物もすみやすく、また動物が移動しやすい環境となっています。溪流にはムカシトンボやゲンジボタルも多く、幼虫が陸で生活するヒメボタルの生息地もあちこちで知られています。

大阪湾に流れ込んでいる大きな川もいくつかあり、近木川や男里川の河口には干潟ができ、チュウシャクシギやアオアシシギ、ハクセンシオマネキ、アシハラガニなどが観察できます。しかし、大阪湾の海岸の自然は、護岸整備や河川工事のため大幅に減少し、貝塚の二色の浜だけにすんでいたヤマトマダラバッタも、1980年代のはじめに滅びてしまいました。

泉南の南のはしにあたる岬町の多奈川や谷川など温暖な地域では、亜熱帯系の生きものが分布しています。植物ではホルトノキやカンコノキ、昆虫ではコバネコロギスやアシジマカナタタキなどですが、温暖化の影響で分布を北へ広げるものも増えています。



8. コンゴウオサムシ
(ドウキョウオサムシ)

※写真の右側はオスの交尾器です。
ほかのオサムシの仲間と比べてみて
大変大きいのが特徴です。